

第2次二本松市環境基本計画の改定に関する意見等への対応について

番号	頁	項目等	意見等	対応
1	P2	(2)第2次環境基本計画改定の背景	近々策定が予定されている国の第6次環境基本計画に言及してはどうか。	国においては、6年に一度、環境基本計画を策定しており、2024年に第6次環境基本計画を策定予定となっています。 第6次環境基本計画策定後に、二本松市環境基本計画の必要な見直しを進めてまいります。
2	P2	(2)第2次環境基本計画の改定の背景	全体的に数字が全角になっているので、半角にしてはどうか。	ご指摘のとおり、全角を半角に修正いたします。
3	P4	2.計画の基本理念	「わたしたちは」という表現があるが、市民全体を指しているのであれば「私たち市民は」とすると浸透しやすいのではないかな。	「わたしたち」とは二本松市環境基本条例第4条から第8条及び本計画P8の6に掲載している「市、市民、市民団体、事業者及び滞在者」を指しています。環境基本計画は、市に関わるすべての方が一体となり環境に配慮した施策・事業を進めていく際の指針としています。
4	P6	3.本計画の位置づけ・役割	国、県、二本松市の目標・ロードマップが合わせて分かるような図があると分かり易いと思うが。	福島県のロードマップが分かりやすい内容となっているため、P3に掲載いたします。
5	P8	「二本松市総合計画の改訂」	「改訂」→「改定」に修正する必要があるのでは。	ご指摘のとおり、「改定」に修正いたします。
6	P18	グラフ【二本松市における廃棄物排出量の推移】、【処理形態別人口の推移】	2つのグラフにおける縦軸の単位が未記載なので、それぞれ「t(トン)」や「人」を入れてはどうか。	ご指摘のとおり、それぞれの単位を入れ、修正いたします。
7	P18	(3)廃棄物	プラスチック製容器包装のごみ袋を廃止し、指定袋を5種類から4種類に改めてはどうか。	市では、リサイクル率向上のため、透明なごみ袋(プラスチックリサイクル用)の利用を推進しておりました。 安達地方広域行政組合との研究課題といたします。

番号	頁	項目等	意見等	対応
8	P20	(7) 温室効果ガス排出量	令和 2 年度の大幅な減少の理由について、「新型コロナウイルスの感染拡大に伴う人流減少などにより」などと記載してはどうか。	ご指摘のとおり、「新型コロナウイルスの感染拡大」による文言を追加いたします。
9	P21	グラフ【温室効果ガス排出量の推移】	グラフの縦軸の単位が未記載なので、「千 t-CO ₂ 」などに入れてはどうか。	ご指摘のとおり、修正いたします。
10	P22	「スズタケ型ブナ林が小規模であるが残されています。」	「小規模であるが」のところに「だ・である調」が混在しているため、「です・ます調」に修正してはどうか。 (例：「小規模ですが」、「小規模ながら」)。	ご指摘のとおり、修正いたします。
11	P23	【注目すべき植物種】「シダ植物」、「種子植物」	ふくしまレッドリスト（2022 年版）では、分類群名が変わっているの、正確な分類群名を入れてはどうか。（一つの生物群にするならシダ植物を含めて、「維管束植物」）	ご指摘のとおり、「維管束植物」に分類群名を修正いたします。
12	P27	【注目すべき魚類】「地域個体群」	ふくしまレッドリスト（2022 年版）における正式な表記は、(P26 に記載の通り)「絶滅のおそれのある地域個体群」なので、正式な表記にしてはどうか。	ご指摘のとおり、「絶滅のおそれのある地域個体群」に修正いたします。
13	P27	【注目すべき昆虫類】「カワラハンミョウ」	ふくしまレッドリスト（2022 年版）におけるカワラハンミョウの科名は、「ハンミョウ」科ではなく「オサムシ科」となっているので、修正してはどうか。	ご指摘のとおり、「オサムシ科」に修正いたします。
14	P30	3. 市民、事業者などの環境意識	アンケートが平成 30 年度に実施しているが、今回の改定でアンケートを実施する必要はなかったか。	今回の計画改定は、令和 32 年（2050 年）までに脱炭素社会の実現を目指し、温室効果ガス削減目標を国及び福島県が掲げる目標に合わせて推進していくことと、再生可能エネルギーの導入にあつては、「地域と調和が図られ、安全・安心」に推進されるよう必要な指導をするために改定するものです。 第 3 次計画策定時にアンケートを取ることにし、今回はアンケート調査を実施しませんでした。
15	P30	「関心が高まっているものと考えます。」	「考えます」について、他の箇所では「考えられます」と受動態になっているため、ここでも同様に受動態としてはどうか。	ご指摘のとおり、「考えられます」に文言を修正いたします。

番号	頁	項目等	意見等	対応
16	P36	I．脱炭素社会を実現する	第3章の目標のI項では「2050 カーボンニュートラル」の目標達成的な表現にしておくべきではないか 例えば、以下のような表現ではどうか。 「地球温暖化対策は、国際的にも積極的な取り組みが推進されており、国及び県においては「2050 カーボンニュートラル」宣言を発し、温室効果ガス削減目標前倒しの計画を進めています。 本市においても、この高い目標達成に向けて計画を進めていきます。」	ご指摘のとおり、文言を修正いたします。
16	P39	「出展：国際連合広報センターホームページ」	「出展」→「出典」や「出所」などに修正してはどうか。	「出典」の表記が正しいため、修正いたします。
18	P43	ゴチカンの取り組み	全体的に数字が全角になっているため、半角に統一してはどうか。	ご指摘のとおり、半角に修正いたします。
19	P43	2. 施策展開 I．脱炭素社会を実現する	「2050 カーボンニュートラル」はI - 1だけを対象としている訳ではなく、I - 2を含めたものなので、以下のような表現とし、整理してはどうか。 「I．脱炭素社会を実現する 「2050 カーボンニュートラル」を達成し、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーの導入拡大やエネルギー消費、温室効果ガス排出量の削減を図っていきます。」	ご指摘のとおり、文言を修正いたします。 なお、上位目標として、「脱炭素社会実現」を記載いたします。
20	P43 - 47	【環境指標】	「住宅への太陽光発電システム設置」が温室効果ガス排出量（家庭部門）にどの程度効果があるのかを明記してはどうか。	P42住宅への太陽光発電システム設置件数の下段に下記の文言を追加いたします。 「太陽光発電 1kwh あたり、約 477 g-CO₂が削減され

番号	頁	項目等	意見等	対応
				ます。 住宅用太陽光発電 4kw を設置した場合には、年間約 1,908 kg-CO₂が削減されます。」
21	P44	【環境指標】	I - 1 の再生可能エネルギーの推進における【環境指標】に「カーボンニュートラルの実現：令和 10 年目標値（令和 32 年）」が追加されているが、ここは、それぞれの施策に対する指標を示すべきところであり、従来通りの「住宅への太陽光発電システム設置件数だけで良いのではないか。	ご指摘のとおり、【環境指標】を「太陽光発電」だけといたします。
22	P44 他	【環境指標】 目標値	目標値について、計画期間の累計での標記も検討してはどうか。	目標数値の在り方については、次期計画策定において検討させていただきます。
23	P48	温室効果ガスの削減目標	将来排出量は、国の目標を踏まえて設定されているが、これまでの状況を踏まえると非常に厳しい目標設定であると感じる。 産業部門では、平成 25 年度から令和 2 年度において排出量が増加している。このような 状況で、令和 10 年度、令和 12 年度の目標値を掲げるだけでは不十分と考える。 各部門で、どのような実施可能な取り組みがあり、それらの削減量がどの程度なのかを示してはどうか。	2050 年の実質 CO₂排出量ゼロの達成は、ご指摘のとおり、高い目標となっておりますが、市として目指さなければならない目標であると考えております。 CO₂排出量削減は、市だけでなく、国・県の制度を活用しながら、市民、市民団体、事業者、滞在者などが P42 から P44 に掲げた取組内容を実施することによりそれぞれで排出削減を目指していくこととなります。 各部門で実施可能な主な取組内容について P47 へ例示することといたします。
24	P48	温室効果ガスの削減目標	P46 の表に、二本松市における森林による吸収量を併記して、カーボンニュートラルの達成に必要な排出量を明確にしてはどうか。	森林による CO₂の吸収量については、二本松市の吸収量を把握しておらず、本計画では記載しておりません。 まずは、CO₂の排出量をできるだけ削減することが重要であるため、排出量削減を中心にした計画としました。 次期計画の中では、森林による吸収量についても反映いたします。

番号	頁	項目等	意見等	対応
25	P50	市の役割	外部被ばくの文が削除されたが、実施しない理由について説明書きをしてはどうか。	外部被ばくや内部被ばく量の測定については、市全域の空間線量が低下したことから令和5年3月31日に汚染状況重点調査地域の指定が解除され、市民の意識の変化等により測定希望者が減少したことから令和5年度末をもって終了したところです。 計画内で説明をします。
26	P53	【環境指標】	環境指数「一人1日あたりのごみの総排出量」は、目標達成可能な数値なのか。平成29年から令和4年度にかけて量が増えているようだが。	「一人1日あたりのごみの総排出量」ですが、地震や災害等の発生により増加する傾向があり、令和3年2月と令和4年3月の福島県沖地震により災害ごみが増加したもので、令和5年度に関しては、平成29年度並みとなります。 ごみの減量化に関しては、新設する生ごみ処理機等補助や資源回収団体の育成により目標達成を目指します。
27	P55	【環境指標】 目標値	実績（平成29年度）と目標値のギャップよりも、実績（令和4年度）と目標値のギャップのほうが大きくなっているので、目標値を上方修正してもよいのでは。	令和6年度までは、ふくしま森林再生事業（原発事故により機能低下した森林の多面的な維持による森林再生事業）を活用しているため、実績値が高くなっております。 令和7年度以降は、国から交付される森林環境譲与税（毎年2,700万円）の範囲内での事業を予定しているため、目標値は、変更しません。
28	P56	Ⅲ－2 農村環境の保全と活用	市民、市民団体、事業者、滞在者への期待する取り組みについて、内容を実現するためには、なんらかの助成が必要ではないか。 また、もっと内容を市民にPRし浸透させることが大切だと思われる。	市民、市民団体、事業者、滞在者の皆さんに必要な情報提供、啓発PRを進めていくとともに、助成についてもさらに検討していきます。
29	P57	市の役割	P6における関連する計画について言及してはどうか。	ご指摘のとおり、追加いたします。

番号	頁	項目等	意見等	対応
			(例:「緑の基本計画」などと連携させて一体的に緑地の整備等を推進します。)	
30	P59	市の役割	P6 における関連する計画について、言及してはどうか。 (例:「都市計画マスタープラン」や「景観形成基本計画」などと連携させて一体的に景観形成等を推進します。)	ご指摘のとおり、修正いたします。
31	P61	市民, 市民団体, 事業者, 滞在者へ期待する取り組み	「市民」の 2 点目に「市や市民団体、事業者などが行う環境に関するイベント」との記述があるが、「市民団体」のところに「環境に関するイベントの開催」との記述があるものの、「事業者」のところにはイベントの開催に関する記述がない。 「事業者」の役割に追加が必要では。	ご指摘のとおり、整合性をとるため、「事業者」の役割に「環境に関するイベントの開催などに努めます。」を追加いたします。
32	P65	2. 進行管理	Plan Do Check Action という流れで推進管理を行っているが、もっと細かくすることで、ふり返りがしやすく効果があげられるのではないか。 例えば「RVPDCA」 Research 【実態把握】 Vision 【目標・構想】 Plan 【計画】 Do 【実践】 Check 【評価】 Action 【改善】	進行管理ですが、本計画よりも上位計画である「二本松市総合計画」における進行管理を準用しております。 毎年度取り組みを振り返り、年々変化する社会情勢に対応できるよう、今後の検討課題とさせていただきます。